

吉川靈華 きうかは れいけいは 日本畫家、書家。明治八年五月四日東京本郷生れ、

昭和四年三月二十五日歿（八七—一九元）。本名準、ひとこ幼名三郎。父は吉

川澹齋（昌平坂學問所助教、維新後外務省出仕、大正三年歿享年八十

三）。初め狩野派、土佐派と學ぶ、岡田爲恭たむちかに私淑。専ら大和繪を研

鑽。大正五年金鈴社を結成（十一年解散）。帝展審査員を務めた。篆

刻を能くし、書にも秀れ、殊に草假名は、藤原時代以後の第一人（尾

上紫舟）。

『靈華追悼畫集』（關如來編、昭和四年五月十五日會心居）、『吉川

靈華遺文』（山田紫光編、昭和五十年十一月二十五日京都・橘香会）

等あり。

